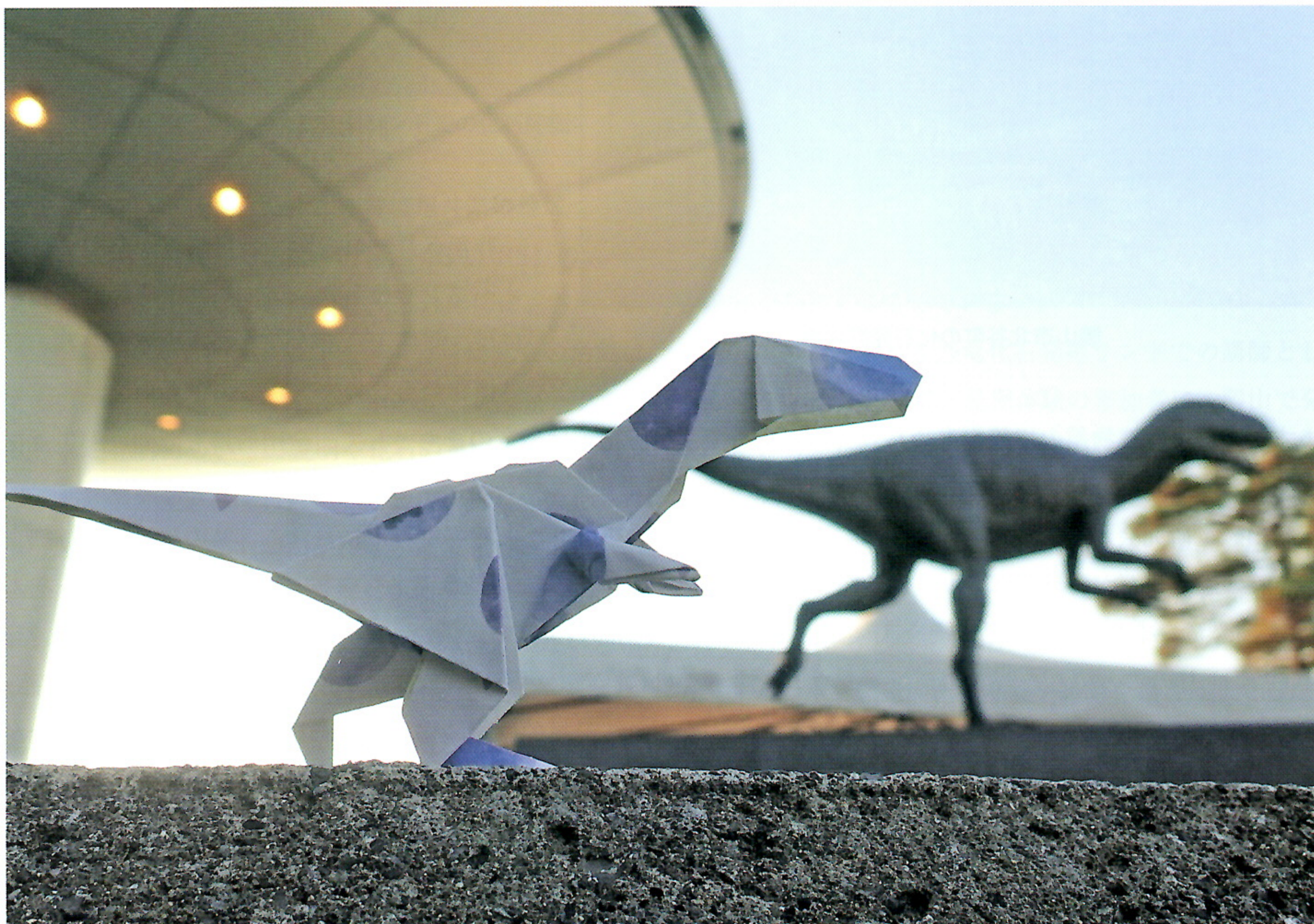


# SAURS

## 勝山恐竜研究会通信 NO.30



折り紙作製・写真撮影：勝山恐竜研究会理事 滝川真澄

### Quiz

この恐竜モニュメントの名前と設置場所を当ててください！

クイズ① 恐竜モニュメントの名前 \_\_\_\_\_ ? \_\_\_\_\_      クイズ② 設置場所 \_\_\_\_\_ ? \_\_\_\_\_

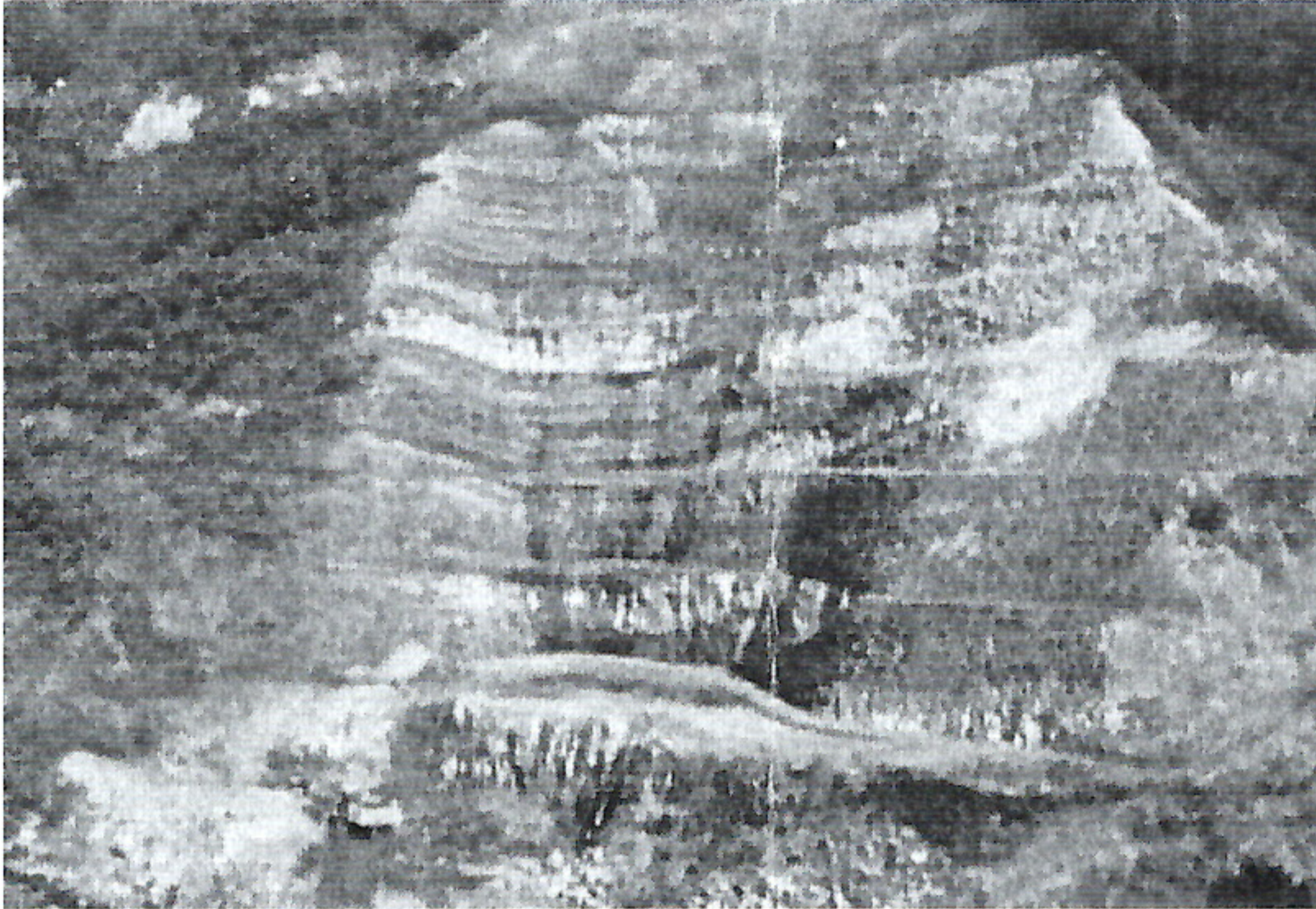
最終面に同様のクイズが⑮番まであります。詳しい内容をご確認の上、応募して下さい！

### CONTENTS

勝山恐竜研究会 30 年のあゆみ ..... 2 ~ 4  
 「SAURS」バックナンバー ..... 5  
 学名が付けられる前の恐竜たち ..... 6

勝山で発見された恐竜の名前全部言えますか？ ..... 7  
 恐竜モニュメント：恐竜モニュメントの名前と設置場所当てクイズ ..... 8

# 勝山恐竜研究会 30年の歩み



勝山市北谷町の化石発掘現場



勝山恐竜研究会 副会員  
辻 茂

昨年5月、道の駅「恐竜溪谷かつやま」がオープンしました。又、福井県立恐竜博物館には、年間100万人近くの来場者が訪れ、野外博物館も含めて大変なにぎわいを見せてい

ます。さらに、博物館の増築も進められているようです。勝山市は恐竜のまちとして、全国的にも認知度がアップしているのは間違いのないところだと思います。

勝山恐竜研究会が発足したのは1991年。今から30年前の事でした。北谷町杉山における、県の第1次発掘調査で多くの恐竜化石が発見されて大きな話題となりました。勝山市でも、「恐竜のまち構想」を打ち出しました。そんな中、“恐竜をまちづくりに活かそう！”と、商工会議所青年部の主催で、『恐竜シンポジウム』が開催されました。1990年11月のことでした。このシンポジウムをきっかけに、新せいき会・商工会議所青年部・勝山青年会議所・北谷青年団・勝山市観光協会などによる恐竜懇談会がもたれ、発展的に組織化された形として、勝山恐竜研究会が発足し、この年にはたくさんの事業が行われています。当時の福井県立博物館の東洋一学芸員や、東京大学の濱田隆士教授、漫画家のヒサクニヒコ氏などの講演会がありました。そして、事業の中でも1番印象的なものとして、『第1回恐竜教室』が挙げられると思います。この事業は、市内外から小学生を募集し、杉山分校で一泊しながら恐竜について学習するという、中身の濃いものでした。中でも化石発掘調査現場での発掘体験は、現在長尾山のどきどき恐竜化石発掘ランドで行われている、化石発掘体験の原形といってよいものだと思います。この教室は第4回まで杉山分校で一泊二日の日程で行われました。第5回からは市立図書館との共催事業となり、現在まで継続されています。

1992年、勝山恐竜研究会では、勝山市長、勝山市教育長に要望書を提出しています、「恐竜のまちとしての拠点施設を杉山分校につくってほしい」との要望です。後に恐竜博物館という世界に誇る恐竜の拠点が誕生することになります。

1995年になると、県では恐竜博物館の基本計画が策定されるなど、いよいよ恐竜研究の拠点づくりが具体的になってきます。計画が進むことに伴い、勝山恐竜研究会では全国の博



恐竜エキスポ2000



どきどき恐竜化石発掘ランドでの化石発掘体験

物館への視察研修をおこなっています。豊橋市自然史博物館や茨城県立自然博物館、神奈川県立生命の星地球博物館や国立科学博物館などなど、20ヶ所にのぼります。

そして、ついに2000年7月、恐竜博物館がオープンします。オープニングイベントの『恐竜エキスポ2000』には、80万人を超える人々が勝山を訪れ、イベントは大成功をおさめました。勝山恐竜研究会では期間中、どきどき恐竜化石発掘ランドでの講師を派遣し、成功に一役買ったことは言うまでもありません。2001年、勝山恐竜研究会は、福井新聞文

化賞を受賞いたしました。この賞は福井県の地域づくりに貢献した団体や個人に贈られるもので、勝山市において、恐竜に関する啓蒙普及活動や広報誌『SAURS』の発刊に取り組み、市民への恐竜に対する関心を高めた功績を認められての受賞となりました。又、2003年には、勝山市教育委員会文化賞も受賞しています。

「恐竜エキスポ2000」以降の勝山恐竜研究会の活動は、長尾山にあるどきどき恐竜化石発掘ランドでの講師としての役割が中心となりました。ゴールデンウィークや夏休み期間をメインとして、発掘体験の参加者に、勝山で発見された化石についての説明や化石の見つけ方の指導、道具の使い方や見つかったものが何の化石であるかの解説が主な仕事です。時々、たいへん貴重な化石が発見される事もあり、大人気の体験コーナーとなりました。現在は、NPO法人恐竜のまち勝山応援隊が運営しています。

どきどき恐竜化石発掘ランドの参加者が年々増加してゆく状況の中で、当会としては、ひとつの問題点に気づかされます。それは地元の子どもの参加が非常に少ないということでした。もっと地元の子どもたちに恐竜への関心を高めってもらうためにはどうすればいいか？そこで発案されたのが、「かつやま恐竜図画作品展・恐竜を描こう」でした。第1回の応募作品は499点でした。回を重ねるごとに少しずつ数を増やし、昨年（2022年）の第11回では1280点の応募がありました。子どもならではの柔軟で豊かな発想と創造力から生まれるカラフルな恐竜やおもしろい恐竜など、思わず目を見張るような生き生きとした恐竜がたくさん描かれている事をうれしく、又たのもしく思っています。

最後に、今現在の勝山恐竜研究会の活動は、会員の減少や高齢化もあり、発足当時とはかなり縮小されています。しかし、継続事業として恐竜教室の開催や広報誌『SAURS』の発行をメインに、各種イベントへの参加を通して、恐竜の魅力をこれからも発信していきたいと考えています。



折り紙教室 みんなで確認 恐竜できたよ！

## 勝山恐竜研究会 30年の歩み

年度	サウルス	恐竜セミナー講師	視察研修、交流会
1991 (H3)	No.1	東洋一氏・ヒサクニヒコ氏	
1992 (H4)	No.2	東洋一氏	豊橋市自然史博物館・瑞浪市化石博物館・ティレル博物館(カナダ)(市視察)、恐竜倶楽部
1993 (H5)	No.3	恐竜倶楽部(木村氏・森田氏・広末氏・徳川氏)	大阪恐竜展「ディノアライブ」・大阪市自然史博物館・海洋堂、笠岡市一行
1994 (H6)	No.4	たかしよいち氏	大阪「世界最大の恐竜博」恐竜造形教室開催
1995 (H7)	No.5	ヒサクニヒコ氏・高島純氏(恐竜文化賞恐竜トーク)	福井県立博物館・国立科学博物館・茨城県自然博物館・神奈川県立生命の星地球博物館・デンバー自然史博物館(市視察)
1996 (H8)	No.6	濱田隆士氏	滋賀県立琵琶湖博物館「サウルス」福井テレビ賞を受賞
1997 (H9)	No.7	稲澤俊一氏	日本インシュレーション(株)、恐竜倶楽部
1998 (H10)	No.8		恐竜チャンピオンを共催
1999 (H11)	No.9 特別号	ヒサクニヒコ氏	名古屋市科学館・岐阜県立博物館
2000 (H12)	No.10		中央構造線博物館・飯田市美術博物館、ヒサクニヒコ氏・たかしよいち氏・鳥羽市一行 恐竜チャンピオン2000を共催
2001 (H13)	No.11	高島純氏	白山白峰恐竜パーク・白峰化石壁・望岳苑 福井新聞文化賞を受賞
2002 (H14)	No.12	川端裕人氏	大山町恐竜足跡発掘地・富山市科学文化センター、恐竜倶楽部
2003 (H15)	No.13	濱田隆士氏	金生山化石館・瑞浪化石博物館、韓国恐竜体験(恐竜博後援会)
2004 (H16)	No.14	小林快次氏	石川県自然史資料整備室・大桑河原、中国恐竜体験(恐竜博後援会)
2005 (H17)	No.15		杉山川・小矢部市田川で化石採集
2006 (H18)	No.16		化石クリーニング研修
2007 (H19)	No.17		兵庫県立人と自然の博物館
2008 (H20)	No.18		杉山発掘現場での研修
2009 (H21)	No.19	小林快次氏	丹波竜化石発掘現場・丹波化石工房 第1回「恐竜を描こう」を開催
2010 (H22)	No.20特別号		大野市和泉地区で研修 勝山恐竜研究会創立20周年行事
2011 (H23)	No.21		ヒスイ海岸・フォッサマグナミュージアム
2012 (H24)	No.22		勝山市の手取層群の上部に発達する地層の研修会
2013 (H25)	No.23		杉山川で化石発掘の実習
2014 (H26)	No.24	一島啓人氏	佐川美術館・京都大学総合博物館
2015 (H27)	No.25		恐竜を活かしたまちづくり講習
2016 (H28)	No.26	町澄秋氏	杉山川で観察会と講演会
2017 (H29)	No.27		勝山の石観察会(滝波川)・砂金パンニング研修会(松本健一氏)
2018 (H30)	No.28		砂金採集会(足羽川)
2019 (R1)	No.29		大野市ホロッサ発掘体験・砂金探索(北郷・足羽川)・若狭高浜化石観察会
2020 (R2)	No.30		砂金探索(敦賀)

※『恐竜教室』を毎年、勝山市立図書館で行っています。化石レプリカ教室の出張講座をしています。